

## 東日本大震災から1年

# あの日を 忘れない 忘れては いけない

災害時における「自助」「共助」「公助」の効果割合は「7:2:1」といわれています。このため、一人ひとりの市民が、地域が、災害に対する高い意識を持ち、日ごろからの備えを怠らないことが何よりも大切です。もしものときに備え、市民の皆さんや地域に対するお願いと市の対策について紹介します。



## 災害に強い安心・安全な行田の実現に向けて

東日本大震災から間もなく1年が経過しようとしています。この震災で犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

本市では、震度5強の強い揺れが観測され、重傷者1人、軽傷者3人の人的被害のほか、屋根瓦の破損や塀の倒壊など1,046件の物的被害も確認されており、多くの方が今まで経験したことの無い被害に見舞われました。

このような中、自治会役員の皆様をはじめ、民生・児童委員や自主防災組織の皆様など、地域での助け合いにより、災害時要支援者の安否確認が迅速に行われ、すべての方々の安全が確認されました。ご尽力いただきました皆様に、改めて感謝を申し上げます。

地震や洪水など、自然の猛威を人間の力で抑え込むことはできませんが、被害を最小限に食い止め、災害に強いまちを構築するためには、個人や家族による「自助」、地域で助け合う「共助」、行政による「公助」が重要であり、それぞれの災害対応力を高め、連携を強化することが不可欠です。なかでも、日ごろから市民の皆様一人ひとりが災害に対する高い意識を持ち、地域と一体となって災害に備えておくことが大切です。

今後とも本市では、市民の皆様の尊い命と財産を守るため、市民の皆様をはじめ、各種団体や企業等と力を合わせて、災害に強い安心・安全な行田の実現に力を注いでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。





# 自助

## 自分の命と家族は 自分の力で守る

災害発生時、守るべき優先順位は、自分と家族の命です。次に紹介するのは、すぐに取り組んでほしい家庭の防災対策です。

### 普段から身の回りの安全を確保しましょう

転倒しやすい家具などは突っ張り棒やL型金具などで固定しておきましょう。また、周辺の避難所や避難場所のほか、複数の避難経路の確認をしておきましょう。

### 連絡方法、集合場所を決めましょう

災害時に、最も心配になるのは家族の安否です。多くの場合、仕事や学校などで家族は日中離れて生活しています。災害用伝言ダイヤルのほか、複数の通信手段を使った連絡方法を確認しておきましょう。また、自宅が被災した場合を想定し、日ごろから家族で集合場所を決めておきましょう。

### 地震発生時の行動心得5カ条

- 1 グラツときたら身の安全
- 2 落ち着いて火の始末をする
- 3 慌てて外に飛び出さない
- 4 戸を開けて出口の確保をする
- 5 正しい情報で行動する

### インタビュー

#### 家族で防災対策していますか？



関谷さん一家(城南) 左から隆宏さん(父)、和弥くん(長男)、純太くん(次男) 呼人くん(三男)、美紀さん(母)

地震が発生したときは、子供たちに身を伏せて、座布団を頭にかぶるように教えています。また、避難所も家族で把握しています。家族でさらに防災意識を高め、非常持出品や備蓄品など十分な用意をしていきたいと思っています。



非常持出品、  
備蓄品の用意はお済み  
ですか？



乾パンなどの非常食や自身が必要とする非常持出品のほか、救援物資の遅れを想定し、少なくとも3日間は救助なしで生活ができる食料などを、家族構成に合わせて普段から備蓄しておくことが大切です。